

2年学年だよ

令和8年1月29日(木)
島本町立第一中学校
校長 山田 敏博
2年 学年グループ

しょうねん お やす がくな がた
『少年老い易く学成り難し、

いっすん こういんかる
一寸の光陰軽んずべからず』



月日の過ぎるのは早く、少年もすぐに老人になってしまうが、学問はなかなか成就しない。若いときからわずかな時間も大切に、学問に励まなくてはならない。

1月も最終週となりました。この間、始業式を迎えたと思ったらもう1月も終わり。月日の流れるのは早いですね。皆さんは上のことわざを知っていますか。勉強の成果というものはすぐにでるものではないので、時間を大事にして学問に励みましょうという教えです。もう少しわかりやすく、これを植物にたとえてみましょう。植物の種を植えて、次の日にみても何の変化もありませんでした。さて、どうしますか？もう、芽はでないときらめて水をあげないのか、芽が出るまで水をあげるのか？きっと芽がでるまで水をあげるでしょう。それはどうしてですか？種が芽を出すにはしばらく時間がかかるからですね。何の変化もないようにみえても、種は土の中で根っこをしっかりと成長させています。土の中なので見ることはできませんが、見えないところでしっかりと成長しているのです。みんなの学力も今根っこを成長させている時期かもしれません。見えないので何の変化も感じないかもしれませんが、植物の種と同じ、見えないところで成長しているはず。だから、せっかく成長させた根っこが無駄にならないよう、今頑張っている勉強をさらに続けていきましょう。学年末テストまであと3週間です！

人権学習講演会～ようこそ、先輩～

1月9日(金) 5限 ゲストティーチャーの島田さんを迎え、ご講演していただきました。島田さんは第一中学校の卒業生で、陸上部のキャプテンをしていたそうで、その当時の一中の様子などもお話していただきました。

島田さんは中学生のころに学校で人権学習をたくさんしていて、それが世の中の当たり前だと思っていたのに、卒業して社会にでると悪気なく差別をする人や自分の言葉が

人を傷つけていることに気づかない人がたくさんいて、とても違和感があったそうです。ただ、それはその人たちが差別について学ぶ機会がなかったのだとわかり、社会には差別を学んで来なかった人がいるのだということを知りました。就職しても、会社で差別する人がいてとても嫌な気持ちになり、何とかしようと頑張っって声をあげてみましたが、すぐには変えることは出来なかったそうです。しかし1年間頑張った結果、差別発言がなくなったそうです。

差別をなくすことは難しいことではなく、まずはアンテナをはって差別に気づくこと。仲間はずれをしない。もともと一人ひとり違う人間なので、違いをみとめれば仲間はずれはなくなる。言葉の傷は心に残ってしまうので、自分の言葉に気をつけることと、SNSでの発信を簡単に信じてはいけない。社会にでると色々な人がいて、壁にぶち当たる時もあるが、時間をかければ人の心は動くので、自分のできる範囲のことをやり続ければいいし、だれかに相談してみるのもいいかもしれない。

島田さんのお話からたくさん学びがあったと思います。差別のない世の中をイメージしてみましょう。そこでのあなたは自分らしく生きていますか。周囲の人はどんな様子かな。まずはクラスや学年、身近なところから見直してみましょう。

～みんなの感想より～

- ・差別が身近に起きたことはないと思っていたけど、コロナが流行ったときに、コロナにかかった人への差別があったことを思い出し、意外と差別は身近だと思った。
- ・人に何か伝えようという思いは、言い続ければ人を変えられるんだということ学んだ。
- ・差別はけっして他人事ではなく、いつ自分が加害者にも被害者にもなるかもしれないということがわかった。
- ・SNSなどを通じて、差別発言をしている人がたくさんいると知ったのでこれからスマホなどの使い方は常に気をつけるようにしたい。

個人情報のため、HP 上では控えさせていただきます。

